

学校自己評価報告書

(令和元年度)

令和2年8月

学校法人 電波学園

あいちビジネス専門学校 高等課程

学校評価委員会

委員長	竹下	啓太	(校長)
副委員長	玉岡	光哉	(教頭)
委員	浜砂	誠	(渉外科長)
	辻村	梓	(指導主任)
	佐藤	浩一	(教務主任)
	中村	伸行	(事務長)

目 次

I	学校の現況	P 1
II	評価の基本方針	P 2
III	教育目標	P 2
IV	評価項目の達成及び取組状況	P 3
	(1) 教育理念・目標	P 3
	(2) 学校運営	P 4
	(3) 教育活動	P 5
	(4) 教育成果	P 6
	(5) 生徒指導・生徒支援	P 7
	(6) 教育環境	P 8
	(7) 生徒の受入募集	P 9
	(8) 財務	P 10
	(9) 法令等の遵守	P 11
	(10) 社会貢献・地域貢献	P 12
V	学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	P 13

I 学校の現況

(1) 学校名

学校法人電波学園 あいちビジネス専門学校 高等課程

(2) 所在地

〒460-0026

名古屋市中区伊勢山2-13-28

(3) 沿革

○1979年(昭和54年)

名古屋市熱田区伝馬町に名古屋ビジネス専門学校開校

○1980年(昭和55年)

名古屋ビジネス専門学校高等課程商業科設置

学校法人 愛知水野学園 東海工業高等学校普通科と技能連携を開始

○1985年(昭和60年)

技能連携先を学校法人 愛知水野学園 三河高等学校商業科に変更

○2004年(平成16年)

名古屋ビジネス専門学校をあいちビジネス専門学校に校名変更

商業科を総合ビジネス科に科名変更

○2005年(平成17年)

名古屋市中区古渡町に校舎移転

技能連携先を学校法人 愛知産業大学 愛知産業大学三河高等学校普通科に変更

(4) 学科の構成

商業実務高等課程 総合ビジネス科

(5) 生徒数および教職員数

1学年の定員は120名の男女共学。現在は180名の生徒が在籍している。
教職員は専任10名、講師5名。

(6) 施設の概要

1号館 専門課程校舎 (高等課程コンピュータ実習室)

2号館 専門課程校舎

3号館 高等課程校舎

5号館 専門課程校舎

Ⅱ 評価の基本方針

学校の裁量が拡大し、自主性・自立性が高まる中で、その教育活動などの成果を検証し、生徒にとってより良い教育活動等が享受できるような支援・改善を行うことにより、学校運営の改善と発展を目指し、教育水準の向上と保証を図ることが重要である。校長が年度始めに掲げた目標に向けて全教職員が一丸となり、その進捗状況や取り組みの適切等について自己点検をし、教育活動を充実させていく。また、授業アンケートを実施するなど生徒側からの意見を取り入れ、教職員一人ひとりの意欲を高め、課題の絞り込みと解決のための組織的取り組みにつなげていく。さらに、保護者の意見も積極的にくみ取り、反映させていくとともに、その活動状況について、わかりやすく的確に開示していく。これによって家庭との相互の理解を深め連携の促進を図る。

Ⅲ 教育目標

本校は昭和54年4月に開校し、40年の歴史をもつ。学校の理念は開校以来一貫して以下のとおり明確にしている。

1. 本学園の【建学の精神】である「社会から喜ばれる知識と技術を持ち、歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、英知と勤勉な国民性を高め、科学技術・文化の発展に貢献する」を実践する。
2. 生徒一人ひとりのニーズを満たすとともに、質の高い資格とスキルをもった良識ある職業人を育成する。
3. 安心・安全・平等な学校づくり、生徒が安心して通える学校づくりを実現する。

以上の理念は、全教職員ならびに全生徒に周知しており、学内外に向けてもメッセージとして発信している。入学前の説明会において、【本校の指導方針と考え方】の冊子により生徒・保護者に周知しており、また、校内の教室には【誓いの言葉】・【学習五訓】・【生徒五訓】を掲示し、【生徒手帳】にも記載している。

また、育成すべき人材像として「専門知識」、「コミュニケーション能力」、「豊かな人間性」を備えることをあげている。教員と生徒の距離が近いという校風のうえに、それらを達成するための教育活動をはじめとする各種施策を推進し、「安心・安全・平等な環境で、社会に生きる人格を育む」環境を整えている。

IV. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
○学校における教育の特色は定められているか	④	3	2	1
○社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
○理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが 生徒・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
○各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応 する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- ・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者にしっかりと周知されているが、業界ニーズに向けて方向づけられているかという点についてはやや不十分な面もある。

② 今後の改善方策

- ・対応する業界のニーズに応えられるよう、企業からの意見を取り入れ人材育成をしていく。

③ 特記事項

- ・理念・目標を達成するために育成人材像・特色を「安心・安全・平等な環境で、社会に生きる人格を育む」学校とし、本学園の【建学の精神】と合わせて、新入生説明会の際に生徒・保護者に説明している。
- ・生徒に対しては、入学後のオリエンテーションや学年集会・ホームルーム等で理念・目的・育成人材像を周知している。

(2) 学校運営

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
○事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1
○運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1
○人事、給与に関する制度は整備されているか	4	3	2	1
○教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	3	2	1
○業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
○教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1
○情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1

① 課題

- ・情報システムによる業務の効率化は進んでいるが、さらなる効率化を図るべきと思われる。

② 今後の改善方策

- ・情報システムによる業務の効率化について、教務を中心に、教育現場や職員からの提案・改善案を拾い上げ、さらなる効率化を進める。

③ 特記事項

- ・元年度は教育活動に関する情報公開の場として、学校公開日を設定し、保護者が授業参観できる機会を設けた。授業風景や子供の日常の生活ぶりが確認できたと好評であり、教員との信頼関係をさらに深めることができた。

(3) 教育活動

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
○教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
○学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1
○キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
○関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1
○授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
○成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
○資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
○人材育成目標に向けて授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
○関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
○関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
○職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・高等課程で、就職希望者が少ないこともあり、企業・関連施設・業界等との連携によるカリキュラムの作成や人材の交流をする機会が少ないのが現状である。

② 今後の改善方策

- ・将来的なカリキュラム変更に向けて、社会の動向や本校の生徒の現状などを把握して、今後も検討・準備していく。

③ 特記事項

- ・平成28年度からコースの名称を変更して授業を展開し、本格的な教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育を行うことができた。
- ・全職員に、教育関連のテーマで、プレゼンをする機会を設けて職員の能力向上を図っている。

(4) 教育成果

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
○資格取得の向上が図られているか	4	3	2	1
○退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
○卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	3	2	1
○卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1

① 課題

- ・個人情報保護の関係もあり、卒業生の社会的な活躍や評価等は全てを把握できていない状況である。よって、卒業後のキャリア形成の効果を把握し、教育活動の改善に活用されているとはいえない。

② 今後の改善方策

- ・コロナによる深刻な求人減に伴い、今後、数年間は厳しい就職活動が予想される。1年生のうちから、一般常識やビジネスマナーの習得に力を入れて指導をする。
- ・退学の防止には、教員だけでなく、心理士も保護者と対応するなど学校全体で取り組む体制を整え、生徒・保護者との信頼関係をより深め、退学者の抑止に繋げる。
- ・卒業後に卒業生の活躍等が把握できるような体制づくりをし、卒業後のキャリア形成への効果を把握し、教育活動に活用していく。

③ 特記事項

- ・就職指導は履歴書の書き方、面接の練習など、3年生は、4月から実施している。
- ・資格取得については検定対策授業のほか、総合学習の時間や授業後の補習を実施して結果を出している。
- ・令和元年度の資格取得状況は、平均資格取得個数が1年生：4.4個、2年生：7.7個、3年生：9.2個であった。

(5) 生徒指導・生徒支援

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○基本的な生活習慣の確立のために取り組んでいるか	4	3	2	1
○進学・就職指導にかかる支援体制は組まれているか	4	3	2	1
○生徒・保護者からの相談体制が組まれているか	4	3	2	1
○生徒の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○生徒の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
○保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
○クラブ活動等特別活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
○課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
○卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1

① 課題

- ・クラブ活動は、活動場所の制約もあって、クラブ数が少なく、対外的な実績もないため、積極的に奨励している状況ではない。しかし、学内では、ダンス部・演劇部などが地道に活動しているので、外部に発信する機会を増やす必要がある。

④ 今後の改善方策

- ・クラブ活動の活性化のために、練習試合やダンス部は、イベントなどに積極的に参加させるようにする。
- ・文化祭・体育祭など外部で行う行事については保護者や学校関係者に積極的に参加していただくよう案内をする。

③ 特記事項

- ・経済的支援については、本学園として入学時や在籍中の奨学金や、学園内部進学時においては減免制度を設け、支援体制を整えている。
- ・クラブ活動の活動内容や活動の状況は文化祭・新入生歓迎会・体験入学・学校説明会等で発表の場を設け、生徒へ紹介している。
- ・卓球部は高等学校体育連盟に加盟して大会にも出場している。
- ・電卓同好会は全国電卓競技大会（高等課程の部）に中部地区代表として出場した。
- ・生徒会主催で行った挨拶運動（行事等以外ほぼ毎日実施）、お昼の放送などは安心・安全な平等な学校づくりに大きく貢献している。

(6) 教育環境

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できる よう整備されているか	4	③	2	1
○学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修 等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	②	1
○防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応した整備が、なされている状況ではない。
- ・インターンシップや海外研修等の教育体制は整っていない。特に、インターンシップについては、生徒の精神力の弱さや能力を考慮すると慎重にならざるを得ない。

② 今後の改善方策

- ・施設・設備については、まだ不十分な部分はあるものの、少しずつ改善している。
- ・今後はさらに教育体制を整備し、着実に改善する予定である。

⑤ 特記事項

- ・防災に対する体制の取り組みで、毎年、5月と9月の年2回避難訓練を実施している（5月は地震を9月は火災を想定）。
- ・在校生分の災害用備蓄品を整備できている。

(7) 生徒の受入募集

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○生徒募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
○生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	③	2	1
○学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 広報活動に使用する学校案内や資料については、進路決定する際の重要な判断材料になるので、その内容は実態に基づく正確なもので、過大表現になってないか常に注意が必要である。また、学校案内や資料を届ける時期、方法については、中学校のニーズに合った方法にする必要がある。

② 今後の改善方策

- ・ 体験入学・学校説明会の内容をより良いものにしていく。
- ・ 本校の体験入学・学校見学等への参加生徒に対してアンケート調査を実施し、評価分析を行い今後の募集活動の改善に役立てるよう改善していく。

③ 特記事項

- ・ 元年度から、入学者増を目的に、8月・9月に「進学相談会」を実施している。多数の参加希望者がおり、中学校や中学生の保護者に好評である。

(8) 財務

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
○予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
○財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
○財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

- ・財務基盤を判断するための目安である繰越収支差額は、昨年度に続き学園ではプラス数値であるが、人件比率はやや高めである。

②今後の改善方策

- ・より魅力ある学校作り（施設・設備の充実など）に力を入れ、さらに生徒数増加に繋げたい。

③特記事項

- ・財務基盤は、安定している。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
○個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
○自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
○自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・自己評価の問題点を把握はできたが、改善できていない項目もある。

② 今後の改善方策

- ・明確になった改善点は、今年度中に実現可能な項目から順次改善に取り組んでいく予定である。
- ・今後は、学校関係者に対して助言を求め、改善を検討していく。

③ 特記事項

- ・個人情報に関しては、文書を配付し、周知承諾を得ている。また、パンフレット、ホームページなどで取り扱う際には、生徒保護者へ再度確認し、承諾を得ている。
- ・自己評価結果は平成22年度から着手しており、全ての項目が適切となるように毎年、評価結果をもとに改善すべく努力している。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
○学校に教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
○生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
○地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

①課題

- ・社会や地域に提供できるような施設が少なく、今のところ施設を活用した地域・社会貢献はできていない状況である。

②今後の改善方策

- ・ボランティア活動は生徒会を中心に地域の清掃活動やエコキャップ運動、募金活動などを継続的に実施している。他に活動できる内容があるかを検討していく。

③特記事項

- ・なし

V 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

昨年度と比較して評価項目及び取組状況は、ほとんどの項目で「適切」や「ほぼ適切」と評価することができた。

しかし、平成22年度から改善されていない内容もあり、今後に課題を残す状況となっている。項目の内容を見ると学校単体では取り組みが難しいものなども多く存在するので、学園としてどうあるべきかを検討する必要があるように感じた。

一方で、退学者数は、昨年度よりも8名減少して、退学率も8.9%から5.5%と減少したことは、不登校生徒が多い本校においては、大きな成果としてあげられる。今後も継続して保護者との連携をさらに強化し、退学者の減少に努めていかなければいけない。

本校は、中学校時代に学習面や友人関係につまずき、自信を無くした生徒が自信を取り戻すきっかけを作ることができる学校として、生徒・保護者のニーズに応えられるよう安心・安全・平等な環境をさらに強固なものにしていく。